

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

児童生徒を中心に保護者や関係機関との情報交換を行い、相互連携を強化する。

発達障害の可能性がある児童生徒の保護者や学園職員に対して、発達障害の特性に配慮した指導や合理的配慮・早期支援に係る指導助言および専門的な知識・経験に基づいた情報提供を行う。



成果

児童生徒を介して関係機関との情報交換を行うことで、相互連携が強まった。

発達障害の子供の保護者や学園職員に対して、特性に配慮した指導や合理的配慮・早期支援に係る指導助言を様々な方法で行ったことで、発達障害に関する理解が深まった。

個々の子供の特性に即した指導方法や学習教材を開発し、職員や保護者と共有した。

教育センターがセンター的機能を担い、学園園校の特別支援教育の充実を促進した。

事業内容

関係機関との連携

- 教員見学説明会を年数回実施し、関係機関との情報交換を実施した。
- 関係機関の依頼に応じ「支援者会議」に出席し、支援方法や支援の継続性について意見交換をした。
- 要請に応じて「就学支援シート」を作成し、関係機関に情報提供を行った。
- 療育プログラム受講者の学習内容や指導について、関係機関に電話やウェブ会議で情報提供した。

保護者支援

- ペアレントトレーニング・保護者勉強会等を通して、合理的配慮、早期支援に係る助言や教材の提供を行った。
- 療育プログラム受講者の保護者との個人懇談（対面・ウェブ会議・電話による）にて、発達障害の特性に配慮した支援方法についてアドバイスをした。
- 心理検査を含めたアセスメントを実施し、保護者との協議をもとに個別の指導計画を年2回作成し達成度の評価も行った。

事業内容

療育教材の開発

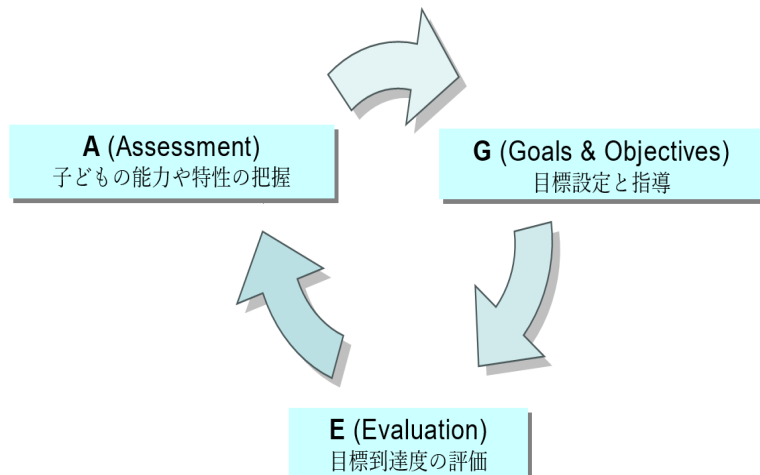
- 発達障害の特性に配慮した個に応じた多様な教材を開発した。
- 令和2年度・3年度においては、コロナウイルス感染予防のために受講できない児童生徒が多かったため、家庭でも学習できるように動画配信やプリント教材の配信を行った。

学園内支援体制の強化と充実

- 学園職員が閲覧できる学園共有ドライブにて、附属幼稚園・小学校・中学校・高等専修学校の職員が開発した多様な教材を共有できるようにした。
- 学園共有ドライブに、合理的配慮や早期支援に係る研修資料や動画を公開した。
- 武蔵野東学園独自の「AGEシステム」を活用した個別の指導計画作成の効率化を図った。具体的には、「課題項目集」の改訂に際して切れ目のない支援を考慮した助言をした。

「AGEシステム」について

「AGEシステム」は教師と保護者が子どもの能力や特性をしっかりと把握した上で（Assessment）、目標設定をし（Goals & Objectives）、その目標に即した指導を行って、到達度の評価をする（Evaluation）武蔵野東学園の発達支援システムである。このA→G→Eの継続したスパイラルにより、個々の子どものよりよい成長を切れ目なく支援していく。



➤ 学期ごとに保護者と教員の話し合いを基に「AGE個人教育目標」を設定し、保護者と共有して目標達成を支援する。期末に、設定した目標の到達度を評価して記入する。「AGE個人教育目標」を上級校に引き継ぎ、一貫した教育を提供する。

➤ 教育目標を設定する際の参考として学園共有の「AGE課題項目集」Book1～4を活用する。幼稚園→小学校→中学校→高等専修学校の切れ目のない支援を充実させるために、到達度を含めた個々の情報を、確実に上級校に引き継いでいく。